



学校だより

第 136 号 平成 30 年 6 月 28 日



火災避難訓練から考えたこと

～命を守るために、学習をつなげよう～



教頭 古川 美乃里

七夕が近づき、水泳の授業が始まりました。思いっきり楽しむ、ちょっぴり勇気をだす、水を通した安全や衛生など、プールには沢山の学びが用意されています。

さて、今回のテーマについて5月28日(月)に行われた第1回避難訓練(火災)で訓練終了後にあった消防士さんの講評から、改めて考えたことをお伝えします。

訓練は、とても落ち着いて、よく避難できていました。 **もっている力を発揮!**

避難のポイントは、「お・か・し・も」です。

「おかしも」は、事前・事後学習で繰り返し学習しています。

近隣校外学習などで、集団での歩き方を学習しています。

火事で怖いのは煙です。ハンカチを口に当てて、体を低くして避難しましょう。

かけない



ハンカチはポケットに入っていますか。(日常生活指導)

体を低くする姿勢はとれますか。(遊び、体づくり、体育)

教員側として、煙を想定した避難経路として廊下が最善か?(判断)

命を守るためには、もっている全ての力を発揮する必要があります。本校の学校目標<目指す子ども像>であり、言うまでもなく教員も同様です。そして、児童生徒・教員が、もてる力を増やす、広げる、強くするために日々の学習や実践があります。

あらためて、日々の学びの大切さを強く思いました。

命を守り、それぞれが豊かに(幸せに)暮らす

教員には、避難訓練ごとにアンケートをとり、より安全な避難につなげています。また、「備え」としての非常食、備蓄薬についても見直しをすすめています。今後、保護者の皆様にご協力をお願いすることがあるかもしれません。

その際は、ぜひよろしく願いいたします。



さて、皆さん、今年の七夕には何を願いますか。お星さまきらきら・きん・ぎん～